

アルツハイマー病に対する疾患修飾療法の実装に伴う物忘れ外来受診者の診断構成および重症度の変化に関する研究

1. 研究の対象

2021年12月から2025年12月までに当院の物忘れ外来を初診された患者さん

2. 研究の期間

研究倫理審査委員会承認後～2029年12月31日

3. 研究目的および意義

アルツハイマー病に対して、レカネマブやドナネマブといった抗アミロイド β 抗体による疾患修飾療法（DMT）が保険適用になり、「認知症になる前にアルツハイマー病を診断して治療を始める」ことも増えてきています。そのため、新しい治療が適用になる前とくらべて、物忘れ外来に求められる役割も変化してきています。

そこで、2023年12月に当院でアルツハイマー病に対するDMTの治療のための専門外来（DMT外来）が開始される前後で、物忘れ外来を初診する患者様の診断や症状の重症度がどのように変化したかを、調べることを目的として、この研究を計画しました。

この研究の結果は、将来的には、物忘れ外来の診療体制や検査内容を患者さんにとって

より適切なものにしていくことに役立てていきます。

4. 研究の方法

指定の期間に当院の物忘れ外来を初診した患者さんのカルテ内容を参照して、問診表の内容や、心理検査の結果、診断、DMT 治療を受けたかどうかを確認し、結果を分析します。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの年齢、性別、最終学歴、受診目的、診断、心理検査（MMSE、FAB、CDR）および問診表の内容（DASC、ZBI、GDS、DBD）、治療内容

* MMSE：ミニメンタルステート検査（Mini-Mental State Examination）、FAB：前頭葉機能検査（Frontal Assessment Battery）、CDR：臨床認知症評価尺度（Clinical Dementia Rating）、DASC：認知症高齢者の日常生活自立度評価尺度（Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System）、ZBI：ザリット介護負担尺度（Zarit Burden Interview）、GDS：老年期うつ病評価尺度（Geriatric Depression Scale）、DBD：認知症行動障害尺度（Dementia Behavior Disturbance Scale）

6. 研究組織

東京都健康長寿医療センター 精神科 松井 仁美（研究責任者）

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

精神科 松井 仁美（研究責任者）

電話 03-3964-1141（平日 9：00～17：00）

-----以上